［認知症対応型共同生活介護用］

１．評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成２１年3月２６日

【評価実施概要】

事業所番号	０９９１０００１１８
法人名	医療法人社団　湘風会
事業所名	グループホーム　ピオニー
所在地	栃木県大田原市山の手２丁目１３－３１ （電　話）０２８７－４６－６０８２

評価機関名	特定非営利活動法人　アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町１１８－１８９		
訪問調査日	平成２１年2月１０日	評価結果確定日	平成２１年3月２６日

【情報提供票より】（平成２１年１月２９日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成　２０年　４月　１日	
ユニット数	１ ユニット	利用定員数計　９ 人
職員数	１１ 人	常勤１人，非常勤１０人，常勤換算７．８人

（２）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	２階建ての２階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	２１，０００　円		その他の経費(月額)	２８，０００　円
敷　　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	１月当たり　３５，０００円			

（４）利用者の概要（平成２１年１月２９日現在　）

利用者人数	９ 名	男性	２ 名	女性　７ 名
要介護１	２ 名		要介護２	２ 名
要介護３	５ 名		要介護４	０ 名
要介護５	０ 名		要支援２	０ 名
年齢	平均 ８０．６ 歳	最低	７６ 歳	最高　８８ 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	益子クリニック、山の手歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物の1階には小規模多機能型居宅介護施設「みずばしょう」が併設され、その2階がグループホーム「ピオニー」である。平成20年4月に開設し1年経っていないが、高齢者介護を担っている施設として地域の人を対象に勉強会を開催したり、自治会に加入するなど地域との関係を築く努力をしている。また、運営推進会議の場で地元の公民館長から公民館の文化祭への出品や公民館の用具の利用などを勧められるなど地域からも支援の声がかかるようになっている。これらは、副理事長や施設長が地域から信頼される施設となるように願っていることの現れである。朝、昼、夕食とも職員が利用者の好物や栄養バランスを考えて献立をつくり、毎食手作りであたたかい食事を提供している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	今回が初めての外部評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は職員全員がそれぞれ記入できる項目について記入し、管理者、施設長がまとめている。全職員が評価の意義を十分に理解した上で自己評価を行ったわけではないが、職員は外部評価を改善のきっかけにしたいと前向きに考えている。今後は、今回の自己評価、外部評価の経験を活かし、課題の改善に取り組まれることを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護施設「みずばしょう」と合同で開催している。会議では普段聞くことができない家族からの思いを聞くことができ、地域包括支援センターからは外出の機会が少ないのではと具体的な指摘などもあり、活発に意見交換されていることがうかがえる。運営推進会議でも指摘された外出の機会が少ないことを職員は課題として捉えている。グループホーム内で完結しがちな生活を見直し、外出の機会を増やすことは、人員配置の工夫だけで可能になるのか、管理者を中心に全職員で具体的に検討してほしい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	行事の様子も含めた入居者の日常の様子を家族に個別にお便りで知らせている。健康状態については状態が変わるなど特別のことがあったとき看護師である計画作成担当者を通じて知らせている。家族は面会時に職員や管理者、施設長に意見や要望を申し出ている。家族からの要望について現場での対応で済む場合は、管理者の判断で直ぐに対応する。それ以外は、朝の申し送りや、週1回のミーティングの場で検討される。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	事業所としては、地域の人を対象にした介護の勉強会を開催している。第1回は「高齢者の特性に戸惑う家族に対して」第2回は「介護が必要となった時の情報」。また、キャラバンメイトである地域包括支援センターの職員の協力で、地域の人と職員がともに認知症の理解を深める場を作った。これらの催しは、加入している自治会の回覧板で知らせている。

2.　評　価　結　果　(詳　細)

※ ▒▒▒ は、重点項目。　　取り組みを期待したい項目

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」一人ひとりのその人らしさを大切にした生活支援に努めることを理念に掲げ、重要事項説明書で示し、せかさないよう、ゆっくりとした雰囲気を作る努力をしている。地域の中で暮らし続けることを支援することより、グループホーム内の生活を支えることを優先した理念となっている。	○	事業所は、住みなれた地域でその人らしく安心した暮らし、関係性の継続を支えるため柔軟な支援をする地域密着型サービスとしての役割を担っている。現在の理念を補強し、地域の中で生活を支える実践の拠り所となるような理念をつくりあげていくことが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、週1回のミーティングで、施設長や職員とともに理念について話し合う機会を作っている。管理者は、職員みんなが入居者を第一に考え支援している、と認識している。職員は、一人ひとりを見守り、危険を伴う時は直接付き添うなどしながら、その人らしさを損なわないように支援している。	○	職員の努力で、グループホーム内では理念である「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」の生活を実現している。今後はホーム内だけで完結しがちな生活を見直し、入居者が行きたいところに出かけていく、入居者と地域のつながりを継続するなど、入居者を中心として地域を意識した支援を試みてほしい。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所としては、地域の人を対象にした介護の勉強会を開催している。第1回は「高齢者の特性に戸惑う家族に対して」、第2回は「介護が必要となった時の情報」。また、キャラバンメイトである地域包括支援センターの職員の協力で、地域の人と職員がともに認知症の理解を深める場を作った。これらの催しは、加入している自治会の回覧板で知らせている。	○	1階にある併設の小規模多機能型居宅介護施設「みずばしょう」と共に、地域とのかかわりを更に積極的にグループホープにも広げることで、入居者と地域との関係性がより一層深まることを期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員がそれぞれ記入できる項目について記入し、管理者、施設長がまとめている。全職員が評価の意義を十分に理解した上で自己評価を行ったわけではないが、職員は外部評価を改善のきっかけにしたいと前向きに考えている。	○	今後は、評価の意義を十分に理解し、今回の自己評価、外部評価の経験を活かし、課題の改善に取り組むことを期待する。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護施設「みずばしょう」と合同で開催している。会議では普段聞くことができない家族からの思いを聞くことができ、地域包括支援センターからは外出の機会が少ないのではと具体的な指摘などもあり、活発に意見交換されていることがうかがえる。	○	運営推進会議でも指摘された外出の機会が少ないことを職員は課題として捉えている。グループホーム内で完結しがちな生活を見直し、外出の機会を増やすことは、人員配置の工夫だけで可能になるのか、管理者を中心に全職員で具体的に検討してほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する大田原市サービス事業所連絡協議会に参加しており、他の事業所の取り組みの事例発表や意見交換などが参考になっている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事の様子も含めた入居者の日常の様子を家族に個別にお便りで知らせている。健康状態については状態が変わるなど特別のことがあったとき看護師である計画作成担当者を通じて知らせている。ホームとして買い物などの金銭管理は行っていないが、家族の了解の上で本人の管理でお金を持っている入居者はいる。	○	ホームでは通常、通院介助は家族が行うことになっているので、状態が変わるなど特別の時だけでなく、平常の健康状態を家族に知らせておくことは大切である。定期的な健康状態の報告と家族とホームとの入居者の健康に関する情報の共有ができるような工夫が求められる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は面会時に職員や管理者、施設長に意見や要望を申し出ている。家族からの要望について現場での対応で済む場合は、管理者の判断で直ぐに対応する。それ以外は、朝の申し送りや、週1回のミーティングの場で検討される。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	まだ開設して1年であることから職員の離職は無いが、新規事業所への管理者の異動があった。施設長は、離職を防ぐためにスタッフの思いを大切に、意見を聞く場を設けるよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者として参加しなくてはならない研修以外、今年度の外部研修は計画作成担当者が更新研修等を受講しているのみである。管理者を除いた全職員が非常勤で、法人内外の研修の機会が十分に確保されているとはいえない。	○	運営者（副理事長や施設長）には、非常勤パートも含めた個々の職員の質の向上に向けた事業者内外の研修の機会を努めて確保することと、伝達研修の活用や職員が働きながら技術や知識を身につけられるような工夫と支援を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大田原市サービス事業者連絡協議会等には管理者と計画作成担当者が参加して研修や交流の機会があり、サービスの改善や質の向上の参考になることがある。家族への報告の仕方や夏祭りなどでの地域との交流の方法などを参考にして取り組んでいる。家族会の設置も検討することにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームの雰囲気や暮らし方に慣れてもらうため、利用当初は家族に協力してもらって、自宅への外泊をしながら、グループホームへの移行を徐々に行うような配慮をしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	決められた日のゴミ出し、中庭の手入れ、食事の準備、片付けなど、ともに暮らす者として職員を手助けすることを楽しんで行っている入居者がいる。年末には門松を作る様子を全員で囲んで見るなど同じ時を共有した。そのようなことが一緒に過ごす関係を築いていると職員は感じている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的には、職員が入居者の思いを感じ、今までの暮らしぶりを日常生活の中で把握し、暮らし方の希望を把握している。例えば、ある時間になるとそわそわするする入居者がいたが、職員はそれは家族のために食事などの準備を始める時間であることに気がつき、食事の準備や掃除をしてもらうことで落ち着きを取り戻した事例がある。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者によってアセスメント、モニタリングが行われ、サービス担当者会議は日々の申し送りの時や毎週水曜日に行われるミーティング、全職員が参加する月1回行われるミーティングの場を利用して行われ、参加する職員からの意見を聴取している。理念である「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」一人ひとりのその人らしさを大切にした生活支援をケアスタッフは心がけているが、具体的に介護計画に盛り込まれているとまではいえない。	○	その人らしい介護計画づくりに努めたいとの希望はあるが、訪問調査時その人らしい介護計画として確認が取れたのは、金銭管理を入居者本人が行う介護計画の事例であった。今後、本人、家族、職員の意見を取り入れて、その人らしい介護計画づくりに努めてほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごとに見直しを実施するが、状態の変化がない場合は、介護認定の有効期限を見直しの時期としている。定期的にモニタリングを行い、見直しに際してはサービス担当者会議を行っている。ただし、本人や家族からの意見聴取は少ない。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居に際して不安が強い場合は、家族と相談･協力のもと、外泊などができるよう柔軟な支援をしている。入居当初、車椅子だった利用者が、職員から支援を受けて歩行できるようになることも少なくない。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基礎疾患のある入居者全員がかかりつけ医を持ち、基本的には家族の介助で受診している。受診に際して看護師は入居者の状態を家族に口頭で伝え、受診後は家族から結果の報告を受けることで、適切な医療を受けることができるよう支援している。看護師はかかりつけ医師と連携して、入居者が認知症の適切な治療を受けることができるよう受診を勧めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に事業所のサービス提供範囲を提示し、その中で最善の対応に努めることを説明している。重度化、終末期のあり方について、本人、家族、かかりつけ医等との話し合いはされていない。	○	本人、家族にとって重度化した場合や終末期の対応のあり方は大きな関心、不安ごとと思われる。本人、家族、かかりつけ医、看護師、事業所の意向が一致しないままその時を迎えることのないよう、方針を共有することが望まれる。そのために、入居者一人ひとりが安心してサービスを受けることができるように、日々の健康管理や急変時の対応について日頃から話し合いを重ねることを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** ⑴ 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄、手洗いなどの入居者への声かけは、そばへ寄りさり気なく行われていた。記録をとるときは、入居者の目に触れないスペースで記入したり、入居者の名前は日誌等にはイニシャルで、運営推進会議の資料、議事録には番号で表記している。	○	入居者の名前をイニシャルや番号で表記して、プライバシーを保護し、個人情報の取り扱いについて配慮している。しかし、内部においては入居者の名前がイニシャルであるために間違いが起きないか検討を要する。また、外部の人も加わる運営推進会議では、番号で表記されていても入居者数が少なく特定できることがあるので、個人名、個人情報の取り扱い方法を再検討することが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者とのコミュニケーションから本人の気持ちを聞いたり汲みとり、自分で考えて行動しようとすることを実現するよう支援している。大まかな1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮し本人のペースにそった支援をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
⑵ その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は朝、昼、夕食とも職員が利用者の好物や栄養バランスを考えて作っている。入居者によっては刻みや皮むきなどの準備を手伝ったり、後片付け、下膳を職員と行っている。食前には「口の体操」をし、当番の「いただきます」のかけ声で食べ始めていた。月に1回の出前の日や家族との外食は利用者の楽しみである。座席の入れ替えなどの配慮をして楽しく食事ができるよう支援している。		職員が見守りをする一方にならず、入居者と同じものを一緒に食べ、楽しい食事時間を共有することを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室、浴槽は家庭的な広さで、職員は危険なく入浴できることを優先しており、浴槽内に滑り止めマットを敷いたり、手すり、着替え用の椅子を置くなど安心、安全への配慮、工夫をしている。時には入浴剤やゆず湯で入浴を楽しんでいる。病院受診や外出等に合わせて入浴時間を変更する場合があるが、夜間の入浴希望には職員の勤務体制の関係で対応できないことがある。		職員の勤務体制で夜間入浴や希望に合わせた入浴が困難な場合もあるが、それが当たり前にならないよう、個別支援の可能性について、管理者、看護師を含めた全職員で話し合い、利用者の生活習慣、希望にあわせた入浴が出来るような工夫を期待する。
⑶ その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	長年主婦として炊事、掃除をしていた習慣から、ある時間になると落ち着かなくなる入居者には食事の準備や拭き掃除などを手伝ってもらうことで安心感を持つような支援をしている。洗濯物を干したり、朝のゴミ出し、庭の手入れなどの役割を負ってもらったり、習字、歌の得意な入居者などの経験や力を発揮する場面をつくっている。訪問時には歌の得意な入居者が、暮らしてきた地域に伝わる歌を職員の勧めで披露してくださった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回外出の日を設けて、天気の良い日は近くのお寺まで散歩をしたり、お金を使いたい入居者と買い物に行ったり、草取りをしたり、中庭でお茶を飲んだりと外の空気を吸う機会をつくっている。季節によっては、希望する入居者が花市や初詣に出かけている。今後ドライブの計画がある。	○	外出の機会が少ないという意見が、家族や運営推進会議の参加者から出ている。外出は地域の人の理解、協力を得るためにも大切である。短時間でも外出して入居者や職員の心身の活性化を図ることを期待する。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
⑷ 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設長は入居者ができるだけ自由に暮らすことができるよう考えているが、施設が2階にあり階段も幅広で急なので転落防止のため階段入口とエレベーターに鍵をかけている。	○	常に鍵がかかっていて自由に外へ出られない入居者の心理的不安や閉塞感等、鍵をかけることの弊害について運営者及び全ての職員が認識するための話し合いが望まれる。入居者が外へ出ることに気づくために、チャイムなどハード面の工夫や管理者、看護師を含めて入居者の見守りを徹底するなどして、入居者の自由な暮らしを支えていただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で消防訓練を併設施設と合同で行い、消火器の使い方、避難時の注意点、避難方法の指導を受けている。次回は夜間を想定した訓練を行う予定である。	○	居室は2階にありエレベーターもあるが、災害時は停電等も予測され、特に夜間は職員だけでの誘導には限界がある。日ごろから地域の人、警察署、消防署などと連携をとり、様々な時間帯を想定して、具体的な避難誘導対策をつくり、職員と入居者･利用者が一緒に訓練を繰り返すことが求められる。
⑸ その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食残食チェックをして、一人ひとりの食事摂取量を記録し、大まかな栄養摂取量を把握している。水分補給は3回の食事、10時、3時、入浴後等におこない、摂取量の少ない入居者へは好きな飲み物を出して不足しないよう工夫をしている。食事の献立は職員が入居者の好みも反映してつくり、栄養バランスを考えた献立となっている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり ⑴ 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周辺には季節の花が置かれ、2階ホーム入口両脇には節分の時のいわしが掛けられて季節を感じた。窓際には食事スペースとは別にテーブルと椅子が置かれて、外を眺めたり、入居者同士が話しをしていることがある。ホールや廊下の壁には節分の鬼の面、利用者の描いた塗り絵、写真等が飾られていた。浴室入口には段差があるが手すりが設置され、浴槽、脱衣所は家庭的な大きさである。食堂のテレビは食事中もつけたままであった。	○	共用空間の飾りつけ、音、光など入居者と一緒に考えて、自分の住んでる家だという意識を高めるような工夫を今後も期待する。料理好きな入居者が調理台や流しの高さが合わないので調理できないとのことであるが、職員が入居者のできないところをカバーするなどして一緒に調理する工夫や配慮を期待する。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた箪笥や寝具、時計、写真、テレビ、仏壇、ポータブルトイレ等を持ち込んでいる入居者がおり、本人が使い易く、安心できるよう相談しながら配置している。一方、持ち込み品が少なく殺風景に感じられる居室もあった。	○	持ち込み品の多少に捉われることなく、持込が少ない場合でも、職員が入居者の意向を確認し、相談しながら、その人らしい居心地のよい居住空間作りに取り組むことが望まれる。